



目 次

クイーンズランド州総督が来学	1
第41回大薬祭「飛翔」を終えて	学生部長 木村 捷二郎 1
大村栄之助元理事長追悼の辞	理事長 矢内原 千鶴子 3
名誉教授 森 逸男先生のご逝去を悼んで	学長 栗原 拓 史 4
就任の挨拶	自然学グループ 講師 永田 誠 5
平成18年度前期授業・実習評価アンケート	教務部長 松村 靖 夫 5
平成18年度進路・就職状況（中間報告）	就職部長 田中 一 彦 7
平成18年度公開教育講座を終えて	公開教育講座委員長 掛見 正 郎 9
平成18年度市民講座を終えて	市民講座委員長 馬場 きみ江 10
第2回 特待奨学生表彰（学部、大学院）	学生部長 木村 捷二郎 11
部局だより	12
薬用植物園の紹介（イチヨウ）	薬用植物園長 馬場 きみ江

クイーンズランド州総督が来学

去る11月6日(月)に、オーストラリア・クイーンズランド州総督のケンティン・ブライス女史が本学を訪問されました。同総督は、日豪交流年の記念として日本各地を親善訪問するために来日されたのですが、来阪されるに際し、大阪の教育施設や福祉施設の見学を希望され、2004年にクイーンズランド大学(以下UQ)と学術交流協定を締結している本学を訪問されることになったものです。

当日は、本学から矢内原千鶴子理事長、栗原拓史学長をはじめ多数の教職員・学生が歓待しましたが、クイーンズランド州トゥーンバ市と姉妹都市の提携を交わしている高槻市の奥本務市長にもご同席をいただきました。また、UQから薬学部長のニック・ショー教授とリサ・ニッセン博士が来学され、学内見学につづいて昼食懇談

会にも同席されて、ブライス総督を囲んで終始なごやかな雰囲気の中、歓迎行事を終えました。なお、昼食懇談会の後にはUQの両先生による特別講演が行われ、UQの教育・研究の現状について紹介があり、つづいて今春UQを訪問した本学学生3名によるUQ訪問報告が英語により行われた後、本学教員による現在の研究内容に関するプレゼンテーションが行われ、両先生を囲んで活発にディスカッションを展開しました。



第41回大薬祭「飛翔」を終えて

学生部長 木村 捷二郎

本年度の第41回大薬祭「飛翔」は、10月27日(金)～29日(日)の3日間にわたって開催された。ここ数年の大薬祭では、日程の一部が雨になるなど、天候に恵まれなかったが、今年は全日晴れ。主催者・参加者ともに気分は上々、最高の秋日和となった。以下、この3日間を振り返ってみたい。

まず、初日の9:00～ 昨年と同様、「バレーボール大会」(写真-1)で開会の幕が切って落とされた。参加



(写真-1) バレーボール大会

した学友会所属のクラブや研究室、その他、仲良し仲間などによる参加チームでのトーナメントと午後の決勝戦。その結果、優勝は「野球部」。「野球部がバレーボール大会で優勝だって？」の声もチラホラ。でも、優勝は何でもうれしい。その間、講義・実習棟のピロティでは、学内の10指に余る教室及び研究室からの「研究展示発表会」。また、講堂では「ウイニング・イレブン大会」。これらは今回初の催し。前者は「学内で、どのような研究が行われているか」がポスター方式で一目同然に理解できる。一方、後者は大きく映し出された映像を見ながらのプレイステーション2・サッカー大会。また、学生会館1階では「クラブ展示発表会」。さらに、この頃か

ら、時計台周りでは、金魚すくいや射的、タイ焼きや焼き鳥など模擬店が十数店舗開店(写真-2)。パパ、ママ



(写真-2) 模擬店

と子供達がのぞいてゆく。午後の野外ステージでは、「ファイトクラブ」で体力自慢No.1決定戦に続いて、甘い甘い「ベストカップルコンテスト」。17:00になって、体育館では、いよいよ、本日のクライマックス、女子学生による創作ファッションショー「Daiyaku☆Collection」が開催され、第一日が終了した。(1日目入場者数1,111名)

2日目、それぞれ10:00から開場の予定にもかかわらず、朝8:30前から、「フリーマーケット」参加の数台の車が順番待ちに入った。この日も好天である。売る側、買う側、どちらも心は躍る。10:00、講義・実習棟の3C実習室では、田中麗子、和田俊一両先生の指導による「科学実験教室」(写真-3)が開講。持ち寄りの実験衣を着た小学生がパパ、ママとともに実験開始。シュート棒やスライム作りなどに熱中した。学生会館1階の喫茶では、和服姿の茶道部員による「お茶会」への静かな誘い。また、野外では、10:00～と14:00～の2回に分けて、「薬用植物園の見学会」、ここでは漢法薬



(写真-3) 科学実験教室

学研究部の学生たちが「見学会のしおり」を片手にカリンやアシタバを紹介していた。一方、野外ステージでは、10：30～の「アカペラライブ」で自慢の歌を披露。以後、「青春の主張」「DANCE BATTLE in DAIYAKU」。これに並行して、11：00～15：00の間、学生ホールでは「ライブ喫茶」(写真-4)が開催され、軽音楽部や



(写真-4) ライブ喫茶

フォークソング部が日頃の練習の成果を披露した。また、学内全域を利用して、いくつかの場所に用意されたクイズを順に解いてゆく「トレジャーハント」に挑戦する親子が見られた。さて、16：30、体育館ステージでは、本祭のメイン催し「サスケライブ」が始まった。今回の大葉祭実行委員全員が「今回はどうしても人気歌手をよびたい」と主張してきただけのことはある。抜群の歌唱力で「卒業の日」「永遠の夏／輝く明日の方へ」「青いベンチ」など持ち歌が披露された。(2日目入場者数3,970名)

3日目、いよいよ最後の日。この日も朝から快晴。「フリーマーケット」(写真-5)は、ますます、盛況。ざ



(写真-5) フリーマーケット

っと、70店は出店していただろうか。2日目に引き続き、トレジャーハント、展示発表会や薬用植物園の見学会などが継続される他、柔剣道場では「体力測定会」、体育館ステージでは「軽音楽部・フォークソング部によるライブ」、講義・実習棟では、今年初の高槻市薬剤師会のメンバーによる「職業説明会」、一方、野外ステージでは、近くの幼稚園児による可愛い「園児の発表会」(写真-6)や、「神経ビンゴ」「うたびと歌います」に見



(写真-6) 園児の発表会

物客が溢れた。

そして、17：00、大葉祭の最高の催し「男子学生が最後にみせます・薔薇祭」(写真-7)が始まった。今



(写真-7) 薔薇祭

年は、学友会クラブ、サークル含めて14チームが参加。コント、踊りなどなど…。「本学の学生達もやるナ、でも、講義・実習などに忙しいのに、どこで練習していたのだろう？」でも、「うまい、生き生きしている!」。優勝は、3年連続の陸上競技部。隣席の学生によると、練習場は芥川の河川敷とか。その向こう隣のある人の談「今年も陸上部が優勝だって!来年から薔薇部に名称変更だ!」。でも、3連勝はすごい、「おめでとう、陸上競技部」。(3日目入場者数4,348名)

以上、この3日間、本当に盛りだくさんの催し物。実行委員のみならず、それぞれの準備、当日の車の誘導、ガードマン役、後片付け、裏方などなどの学生たち、本当にご苦労様。また、われわれ教職員も「ひやひや、どきどき」。

3日間の入場者総数は9,400名余、それに対して、幸いにも、けが人、病人はゼロ。天候も上々。すべて、この第41回大葉祭にかける実行委員全員の夢と強い思いと努力の産物である。とともに、多額の予算を準備・寄付・協力して頂いた大学当局、同窓会、育友会、近隣の会社や店、高槻市民の方々、諸事にご配慮頂いた教職員、関係者の皆様、学生部・学生課の先生や課員の皆様、また、参加した多くの学生達の汗の結晶とも言える。

最後に、翌日の後片付けも本当にきれいにできた。「やればできる」、これを機に、みんなで、何でも行動できる人として、また、他人を思いやる心をもつ人として、大きく「飛翔」しよう。本当にご苦労様、有難う。

大村栄之助元理事長追悼の辞

理事長 矢内原 千鶴子



平成18年8月23日、本学元理事長大村栄之助氏ご逝去の報に接し、突然のことと大変驚きました。ご葬儀はお身内でのことでありましたので、後日、肥塚事務局長と共にご自宅に伺い、先生のご遺影にお参りさせていただき、ご令室様と共に先生をお偲び申し上げます。

先生には、平成4年2月より平成11年6月までの7年余りの長きに亘り、しかも、高槻新キャンパス建設と松原市よりの全面移転という、本学にとっては100年の歴史の中で、時代を画する最も重大な大事業がなされた時期に、理事長の重職をお務めいただきました。さらに、先生はそれに先立つ8年間、評議員、理事、理事長代行を歴任されました。

記録によれば、本学の学舎移転問題が「将来計画」として、本格的な検討の対象となったのは、昭和61年に遡り、その年の7月25日の理事会において、新たに委員会設置が決定された時と考えられます。以後、6年間に及ぶ様々な議論と検討を経て、平成4年2月17日、大村先生が理事長に就任された最初の理事会において、本学の高槻市への移転及び高槻市阿武山地区校地の購入が、理事全員一致で決定されました。大村先生には、昭和60年6月1日既に理事の任に就いておられましたので、昭和61年7月の移転問題に関する本格的な検討の

開始時より、平成8年5月25日新キャンパス竣工記念式典・祝賀会、その後の松原校地の売却まで、一貫して理事として、さらに最も重要な時期には理事長としてその重責を果たされました。本学が、今この素晴らしい環境の地にあって、教育・研究に充実した日々を送ることが出来ますのも、大村先生の筆舌に尽くし難い並々ならぬご盡力のお蔭であり、その果敢なご決断とリーダーシップに、心より敬意を表する次第であります。一方、そうした重大な時期に、大村先生を理事、理事長としてお迎えできたことは、本学にとって、何ものにも勝る天の配剤であったと、深く感謝いたしております。

私は平成2年、評議員のご指名を受け、以来、大村先生には評議員会の度にお逢いし、時にはお話しさせていただく機会もありました。武田薬品工業株式会社中央研究所において、数々の業績を上げてこられた先生は、当時、私にとっては、その分野での薬学の大先輩としてのご高名の方が印象深く、尊敬と憧憬の念あるのみでありました。今は唯、大村先生の本学に対する計り知れないご貢献の重さに感銘いたしております。ここにあらためて、大村先生に対し、言い尽くせない感謝を捧げるとともに先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



新キャンパス竣工記念祝賀会で挨拶する大村理事長(当時)

- | | | |
|------|-----------|-----------------------|
| <学歴> | 昭和18年 3月 | 京都帝国大学医学部 卒業 |
| <職歴> | 昭和21年 8月 | 武田薬品工業株式会社 入社 |
| | 昭和55年 6月 | 武田薬品工業株式会社 専務取締役 |
| | 昭和60年 3月 | 武田科学振興財団 理事長 |
| | 昭和60年 6月 | 武田薬品工業株式会社 顧問 |
| | 昭和60年 6月 | 大阪薬科大学 理事 |
| | 昭和61年 4月 | ヒューマンサイエンス振興財団 理事長 |
| | 平成 4年 2月 | 大阪薬科大学 理事長就任 |
| | 平成11年 6月 | 大阪薬科大学 理事長退任 |
| | 平成18年 8月 | 逝去 |
| <受賞> | 昭和37年 11月 | 社団法人日本薬学会 学術賞受賞 |
| | 昭和57年 4月 | 社団法人日本農芸化学会 農芸化学技術賞受賞 |
| | 昭和59年 5月 | 藍綬褒章受章 |
| | 平成 3年 11月 | 勲四等旭日小綬章受章 |

名誉教授 森 逸男先生のご逝去を悼んで

学長 栗原 拓史



大阪薬科大学名誉教授 森 逸男先生の訃報に接し、思わず耳を疑うほどに驚きました。先生は、昔から体形もお変わりでなく、我々のように生活習慣病とも無縁のご健康なお体を維持されていただけに、その急逝は、痛惜に耐えられません。今夏の7月22日ご自宅にて、くも膜下出血でお倒れになり、1ヶ月余りのご闘病とご家族の懸命のご看護もむなしく、2006年8月28日早朝帰らぬ人となりました。ここに、大阪薬科大学一同を代表して、謹んで哀悼の意を表する次第です。

森先生は、1960年3月故郷の岐阜薬科大学大学院薬学研究科修了、母校の分析化学教室の助手となられた後、1967年（昭和42年）4月に本学分析化学教室の助教授として赴任され、先生の本学における教育と研究生活がスタートしました。奇しくも、私も同年6月に助手として採用されましたので、先生と私は本学では同期ということになります。当時のことを先生は、「青春時代から郷里を離れることなく過ごした身が、見知らぬ河内の地に赴任した時には、心細さを感じる前に、若さからくるファイトに溢れていた」と述懐なさっておられました。先生は、1980年教授に昇任されましたが、その後も、分析化学教室を主宰されながら、母校の岐阜薬科大学から数えて40数年に亘り、薬学での分析化学の講義・実習に携われ、学部学生のみならず大学院生への分析化学教育の向上に大いに寄与されました。研究面におきましては、先生は一貫して「分析用有機試薬の開発とその光分析法への応用」をテーマに精力的に取り組まれ、多くの実用的な新規定量法を開発するなど、多大な業績を挙げられました。特に、従来ほとんど注目されていなかったフルオレセイン系色素の持つ優れた特性に着目され、この色素群を系統的に合成し、多くの新規吸光用ならびに蛍光用有機試薬を開発されましたが、これらの試薬は、現在バイオイメージングなどに活用されており、この分野の先駆的役割を果たされました。こうした業績の内容は、薬学雑誌、121(10)、707-731(2001)に総説としてまとめられています。

一方、学内においては、教授昇任直後に教務部長を拝命され、当時改正されたばかりの複雑なカリキュラムの整理に没頭されたのを手始めに、3部長職など、数々の要職を歴任され、その重責を見事に果たしてこられました。中でも特筆すべきことは、本学の松原市から現在の高槻市へのキャンパス全面移転に際し、極めて限られた短期間の中であって、移転委員長（1995年）として先

頭に立たれ、緻密な計画の立案と精力的な実行力によって、無事にこの大事業を成し遂げられたことであります。緻密さを扱う分析化学者としての森先生なればこそその偉業、といっても過言ではありません。過去の学報を眺めていますと、にっこりと微笑まれたお写真入りで、様々なお立場での先生の寄稿が幾度となく目に飛び込んで参りますのも当然のことでありましょう。

更に森先生は、本学の理事・評議員として大学の発展に大きく貢献されると共に、学外におきましても日本薬学会評議員、日本分析化学会近畿支部幹事、財団法人小野奨学会理事、学校法人銀海学園理事・評議員、日本眼鏡技術専門学校副校長として、その責務を果たしてこられました。2001年3月に定年退職された後も、嘱託教授として、現在の教員組織の基本となる専門薬学系、総合薬学系、総合科学系の構築に大いに尽力されたことは皆さんの記憶に新しいことだと存じます。これら永年の教育・研究への貢献が高く評価され、2003年嘱託教授を退任されると同時に、同年大阪薬科大学名誉教授の称号を授与されました。さらに、ご退任後も大阪薬科大学評議員に選出され、お亡くなりになられるまで、大学運営に参画なさいました。

森先生は、何事に対しても真摯にかつ冷静に取り組まれ、また、情愛をもって学生、卒業生、同僚、職員をはじめ、多くの人々と接してこられました。その表れの一つが、学生の課外活動のクラブ顧問を長年幾つも勤められたり、また、先生の教室出身者が320余名にも及び、各方面に多くの優れた人材を輩出してこられましたことから伺えると思います。また一方では、極めてご多忙な合間をぬって、学部学生に分かりやすい分析化学の教科書などを他大学の先生方と協力しながら積極的に執筆してこられました。

本年5月の評議員会の終了時、ホテルのエレベーターの出口で、「先生、お変わりなくお元気そうですね」との私の問いかけに、「元気は元気だけど、相変わらず、いくら食べても太らんワ」と笑顔で話しておられました。それが私の先生と交わした最後の会話となりました。

このように先生の本学の発展・飛躍に貢献された功績は極めて顕著であります。

最後に、先生のご遺徳を偲び、重ねて心よりのご冥福をお祈り申し上げます。



就任の挨拶

自然学グループ 講師 永田 誠

平成18年10月1日付で本学総合科学系自然学グループ数学担当講師として着任いたしました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

一世紀を越える伝統をもつ本学に着任できましたことを大変名誉に思いますと同時に、本学の数学教育を担当する教員としての責任を強く感じております。

私は、東京工業大学理学部数学科、同大学院理工学研究科修士、博士課程を卒業、修了の後、同大学理学部研究生を経て京都大学数理解析研究所へ着任、以降数学の研究に従事しておりました。前職では数論、特に解析的整数論の一分野である無理数超越数論での手法を用いて、主として数体を定数体とした線形微分方程式の解の特殊値の数論的性質の研究をしておりました。今後はそこでの研究で得たものを土台とし研究対象を広げて数学の深い理解を目指したいと考えております。

さて私は薬学教育6年制が開始された本年度前期から本学の数学の講義を担当させて頂いております。薬学を学ぶ学生への数学教育とは如何にあるべきか、を常に問いかげながら日々奮闘しております。本学に入学する新入生諸君は義務教育から高等学校まで数学を学習しており数学に対して親近感を持っておられますが、大学で学ぶ数学、即ち限られた講義時間の中で学習する内容の密度に高校までで経験してきた数学の授業とは差異を感じる場合もあるかと思ひます。その差異を如何に埋めるか、如何に親近感を維持させるか、が近年求められている大学初年度の数学教育の要の一つと感じております。数学は自然科学の言語である以上、使える数学が身につけていなければなりません。その教育を担当するのが本学の数学担当教員の使命と肝に命じて努力していく所存であります。本学の先生方、職員の皆様方のご指導ご鞭撻の程を賜りたく何卒よろしくお願ひ申し上げます。

平成18年度前期授業・実習評価アンケート

教務部長 松村 靖夫

平成18年度前期の授業・実習評価アンケートの結果を報告いたします。平成13年度から始まった本アンケートも6年目となり、本学における自己点検・評価活動の中でもきわめて重要な項目に位置づけられるようになりました。平成16年度前期分からは、教員からの指摘にもとづいていくつかの設問項目の表現に改良を加えています。詳細についてはアンケート結果をご覧くださいと思いますが、前回（平成17年度後期）同様、ほぼすべての設問項目（1～17）で高い数値が得られました。これは、各教員がこれまでのアンケート結果を謙虚に受けとめ、講義に対して自己努力を重ねたことが要因の一つであると思われまふ。

アンケートを始めた当初は、講義の最終日にアンケートをとっていましたが、アンケート結果を授業に還元するために学期半ば頃に行うべきとの意見に基づいて、一昨年からは、アンケート用紙の教員への配布時期を早めるようにしました。したがって、教員によってはアンケートを早めに行い、学生の要望や意見をすみやかに講義に取り入れる努力もなされております。

また本授業評価アンケートの結果に対する教員側から

のコメントやメッセージは、学生に公開されています。また教員サイドから教務部への要望も収集しており、少しでも良好な講義環境への改善努力もなされております。

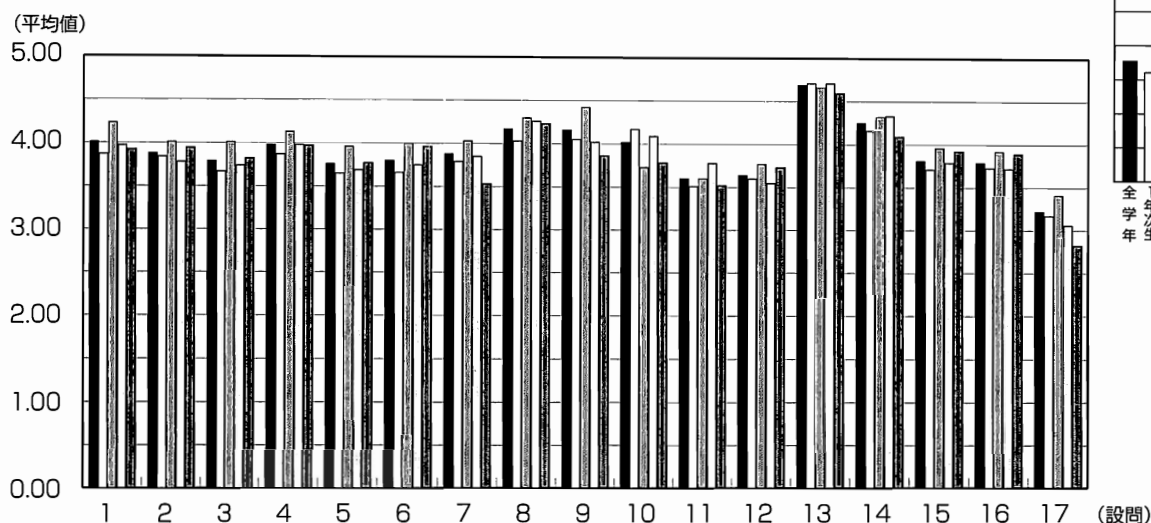
一方で、本アンケートの問題点の一つとして、回答率の低下傾向が挙げられます。例年、前期の回答率は後期に比べると約10ポイント高い数値を示しますが、これは1年次生前期の回答率が極めて高値であることに依存しており、表を見ても明らかなように、高学年になる程、低値になっています。アンケートのマンネリ化がその一因であると思われ、今後の新たな取り組みが必要であるとと考えています。

本授業・実習評価アンケートの実施目的は、各授業・実習において各教員が自己努力を惜しまずさらなる質の改善に役立てることでありまふ。また学生の側から見れば、授業に対する日頃の取り組みや各自の勉学に対する意欲の点検に活かされるべきであります。教務部としても、本アンケートが本学の教育活動の改善により役立つよう、今後も設問項目の点検や実施方法等について議論し、また回答率のさらなる上昇に努めたいと考えています。

平成18年度前期授業評価アンケート集計

	全学年	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
延べ履修人数	14,917名	5,072名	4,631名	4,543名	671名
延べ回答人数	8,760名	3,836名	2,764名	1,979名	181名
回答率	58.7%	75.6%	59.7%	43.6%	27.0%

回答は、5-そう思う(5ポイント)、4-どちらかといえばそう思う(4ポイント)、3-どちらともいえない(3ポイント)、2-あまりそうは思わない(2ポイント)、1-そうは思わない(1ポイント)から選択。ただし、設問2、9、10については、0-該当しない(0ポイント)を設けている。また、各設問において回答がない場合は、集計から除外している。



〔設問〕

1. 口調が明瞭で聞き取りやすかったですか
2. 板書やその他(プリント、OHP、ビデオ、液晶プロジェクター)による説明が適切で授業の理解に役立ちましたか(板書等を使用しなかった場合は0を記入してください)
3. ポイントをよく押さえ、うまく要約されていましたか
4. 授業は、「授業の内容」(シラバス)に沿って進められましたか
5. 授業は、説明が十分で理解しやすかったですか
6. 授業に対する関心を高める努力がなされていましたか
7. 私語や態度の悪い学生に対し注意するなど、静かに授業が行われるように工夫されていましたか
8. 授業は、時間通り始まり時間通り終わりましたか
9. 指定されたテキストや教材は適切に使用されていましたか(指定されていない場合は0を記入してください)
10. 休講があった場合、その補いは十分にされていましたか(休講がなかった場合は0を記入して下さい)
11. 授業内容のレベルはあなたにとって適切でしたか。次の基準で回答してください(5-非常に難しい、4-難しい、3-適切、2-簡単、1-簡単すぎる)
12. この授業を総合的に評価してください。次の評価基準で回答してください(5-非常に良い、4-良い、3-普通、2-あまり良くない、1-良くない)
13. あなたは、この授業によく出席しましたか
14. あなたは、私語などせず授業に集中しましたか
15. この授業を受けてその分野に対する関心が高まりましたか
16. この授業は、あなたにとって有意義なものでしたか
17. あなた自身、授業を理解するよう努力(予習・復習等)していましたか

全学年

設問	平均値 (無回答含まず)	5 そう思う	4 どちらか い え そ う 思 う	3 ど ち ら と も い え な い	2 あ ま り そ う は 思 わ な い	1 そ う は 思 わ な い	0 該 当 し な い	無回答
1	4.01	37.2%	37.1%	17.0%	6.4%	2.1%	-	0.1%
2	3.88	29.4%	35.9%	21.2%	6.3%	2.2%	4.8%	0.2%
3	3.79	27.6%	36.3%	26.1%	7.2%	2.5%	-	0.3%
4	3.98	31.6%	38.0%	27.4%	1.9%	0.7%	-	0.5%
5	3.76	27.1%	36.6%	24.3%	8.6%	3.2%	-	0.2%
6	3.80	28.3%	34.9%	27.4%	6.4%	2.8%	-	0.2%
7	3.88	29.8%	36.0%	27.2%	5.0%	1.6%	-	0.3%
8	4.17	44.6%	35.3%	14.5%	3.6%	1.9%	-	0.2%
9	4.16	39.6%	27.5%	13.9%	3.6%	1.6%	13.4%	0.3%
10	4.02	14.9%	7.3%	8.7%	1.1%	1.1%	66.2%	0.7%
11	3.60	13.3%	36.2%	47.4%	2.2%	0.5%	-	0.3%
12	3.64	19.6%	37.1%	33.4%	7.0%	2.5%	-	0.3%
13	4.69	76.5%	16.8%	5.2%	0.9%	0.3%	-	0.3%
14	4.25	47.3%	34.3%	14.3%	2.9%	0.9%	-	0.3%
15	3.81	29.0%	34.9%	26.3%	6.7%	2.8%	-	0.4%
16	3.79	28.7%	34.3%	26.7%	6.7%	3.1%	-	0.4%
17	3.22	15.0%	22.7%	39.0%	14.5%	8.4%	-	0.5%

1年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらか はどちらか	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	3.87	34.7%	33.5%	19.1%	9.4%	3.2%	-	0.1%
2	3.84	27.8%	32.9%	21.5%	6.8%	2.4%	8.4%	0.1%
3	3.67	23.9%	34.5%	29.2%	8.6%	3.5%	-	0.3%
4	3.87	28.8%	33.7%	33.7%	2.2%	1.1%	-	0.5%
5	3.65	24.1%	35.3%	26.0%	10.1%	4.3%	-	0.1%
6	3.66	24.9%	32.4%	30.8%	7.8%	4.1%	-	0.1%
7	3.79	27.5%	34.4%	29.6%	6.2%	2.1%	-	0.3%
8	4.03	40.9%	33.4%	16.5%	5.4%	3.5%	-	0.2%
9	4.05	36.2%	25.4%	15.7%	4.1%	2.7%	15.7%	0.2%
10	4.17	19.1%	7.7%	8.5%	1.2%	0.7%	62.5%	0.4%
11	3.51	11.6%	33.1%	50.2%	3.6%	1.1%	-	0.3%
12	3.60	18.9%	36.3%	33.7%	7.9%	3.0%	-	0.2%
13	4.71	78.5%	14.6%	5.3%	1.0%	0.3%	-	0.3%
14	4.16	44.9%	32.1%	17.7%	3.7%	1.3%	-	0.3%
15	3.71	26.3%	33.5%	28.5%	7.5%	3.9%	-	0.3%
16	3.73	27.3%	33.2%	28.1%	6.8%	4.1%	-	0.4%
17	3.17	16.0%	21.8%	36.3%	14.5%	11.0%	-	0.4%

2年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらか はどちらか	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	4.23	46.9%	35.1%	13.2%	3.4%	1.3%	-	0.1%
2	4.01	35.3%	36.0%	18.1%	4.7%	2.2%	3.4%	0.3%
3	4.01	36.7%	36.0%	20.4%	5.0%	1.8%	-	0.1%
4	4.13	38.9%	37.7%	21.2%	1.6%	0.4%	-	0.3%
5	3.96	36.4%	34.9%	19.3%	6.8%	2.5%	-	0.1%
6	4.00	38.4%	32.7%	21.4%	5.5%	1.9%	-	0.1%
7	4.03	38.6%	32.8%	23.0%	4.2%	1.3%	-	0.1%
8	4.30	51.3%	32.2%	12.9%	2.5%	1.0%	-	0.1%
9	4.42	51.7%	25.0%	9.4%	1.8%	0.6%	11.2%	0.3%
10	3.73	11.0%	5.7%	9.9%	1.4%	2.1%	69.1%	0.8%
11	3.60	13.0%	35.4%	49.5%	1.7%	0.2%	-	0.3%
12	3.77	25.0%	37.1%	29.5%	5.8%	2.4%	-	0.2%
13	4.66	73.7%	19.1%	5.7%	0.8%	0.3%	-	0.4%
14	4.32	49.8%	35.2%	12.0%	2.1%	0.6%	-	0.4%
15	3.96	35.1%	34.0%	23.5%	4.9%	2.1%	-	0.4%
16	3.92	34.2%	33.4%	24.1%	5.8%	2.1%	-	0.4%
17	3.41	18.5%	24.8%	40.3%	11.1%	5.0%	-	0.4%

3年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらか はどちらか	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	3.97	29.5%	46.0%	17.8%	5.3%	1.3%	-	0.2%
2	3.78	24.8%	40.2%	24.7%	7.8%	2.1%	0.1%	0.3%
3	3.74	23.0%	38.9%	28.1%	7.8%	1.8%	-	0.4%
4	3.98	27.2%	45.9%	24.0%	1.9%	0.4%	-	0.6%
5	3.69	21.2%	39.9%	27.5%	8.8%	2.3%	-	0.3%
6	3.75	21.5%	41.1%	29.9%	5.4%	1.9%	-	0.4%
7	3.85	23.6%	43.6%	27.4%	3.5%	1.3%	-	0.6%
8	4.26	42.7%	42.5%	12.7%	1.6%	0.2%	-	0.4%
9	4.02	31.7%	34.7%	16.5%	5.2%	1.0%	10.5%	0.5%
10	4.09	13.5%	8.8%	8.0%	0.7%	0.5%	67.7%	0.9%
11	3.78	17.8%	42.4%	38.8%	0.5%	0.1%	-	0.5%
12	3.55	14.1%	37.5%	38.2%	7.5%	2.0%	-	0.8%
13	4.71	77.3%	17.0%	4.3%	0.7%	0.3%	-	0.5%
14	4.33	49.9%	36.0%	10.2%	2.7%	0.6%	-	0.5%
15	3.79	26.1%	37.5%	26.0%	8.0%	1.7%	-	0.6%
16	3.72	24.3%	36.6%	27.8%	8.1%	2.6%	-	0.6%
17	3.06	9.3%	22.1%	41.3%	18.6%	8.0%	-	0.7%

4年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらか はどちらか	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	3.92	26.5%	45.3%	23.2%	3.9%	1.1%	-	0.0%
2	3.94	22.1%	51.4%	23.8%	2.2%	0.0%	0.6%	0.0%
3	3.82	18.8%	49.2%	26.5%	5.0%	0.0%	-	0.6%
4	3.97	24.9%	48.1%	24.9%	1.7%	0.0%	-	0.6%
5	3.77	14.4%	51.9%	30.9%	2.2%	0.6%	-	0.0%
6	3.96	23.8%	53.6%	19.3%	1.7%	1.7%	-	0.0%
7	3.53	11.0%	39.2%	39.8%	8.8%	0.0%	-	1.1%
8	4.23	42.0%	42.0%	13.3%	2.8%	0.0%	-	0.0%
9	3.86	15.5%	33.1%	14.9%	3.3%	1.1%	32.0%	0.0%
10	3.78	2.8%	6.1%	2.8%	0.6%	0.6%	86.7%	0.6%
11	3.52	3.3%	45.9%	50.3%	0.6%	0.0%	-	0.0%
12	3.73	12.2%	51.4%	33.7%	2.8%	0.0%	-	0.0%
13	4.59	66.3%	27.6%	5.0%	1.1%	0.0%	-	0.0%
14	4.09	30.9%	48.1%	20.4%	0.6%	0.0%	-	0.0%
15	3.92	23.8%	47.5%	24.9%	3.3%	0.0%	-	0.6%
16	3.89	22.7%	47.5%	26.0%	3.9%	0.0%	-	0.0%
17	2.82	3.3%	17.1%	48.6%	20.4%	10.5%	-	0.0%

平成18年度進路・就職状況(中間報告)

就職部長 田中 一彦

本年度の本学学生の進路・就職状況は、昨年同様堅調に推移しています。薬学生の進路・就職状況は一般学部同様、景気の動向にも左右されますが、ここ数年は行政の影響等を強く受けています。特に、本年4月よりスタートした薬学教育6年制の影響も随所に現れています。本学では、これら進路・就職状況の変化に迅速かつ的確に対応するために、就職ガイダンスや企業セミナー等を開催し、学生との個人面談を頻回に実施しています。特に個人面談を通して学生個々に合った指導を強化中です。

平成18年10月末現在の学部4年次生(54期生)の進路・就職内定状況は表1に示す通りで、内定率は70.5%

(昨年度75.9%)となっています。現時点での進路未定者の多くは、病院薬剤師を第一希望としている学生です。本年度の進路・就職状況の特徴は二つあります。第一点目は、公務員内定者が増加していることです。10月末日現在、3.0%(昨年度2.6%)で、兵庫県、奈良県、山口県、京都市、静岡市、名古屋市等への合格者が出ています。なお、これから選考実施予定の大阪府、大阪市や、現在採用選考進行中の自治体および独立行政法人国立病院機構の各医療センター等の発表待ちもあり、さらなる増加が見込まれます。また、次年度以降も団塊の世代の薬学職公務員退職者増が見込まれ、公務員就職者が本年度以上に増加すると予

想しています。第二点目は、昨年度同様、大学院進学者が多いということです。これは本年4月よりスタートした薬学教育6年制が大きく影響しており、本年度大学院進学者は28.9%（昨年度29.3%）です。他の職種については、保険薬局、ドラッグストア組の最終進路決定が例年以上に遅くなっています。これは希望する病院からの求人待ちなどの様子見が大きく影響しています。薬業関連企業では、営業職であるMR（医薬情報担当者）が少なくなっています。これらの状況を踏まえて、本学就職部委員会・就職課では、個々の学生のニーズに応じた進路・就職支援をさらに強化しています。

1) 個人面談の充実

3年次生全員に対する就職部委員との個人面談、かつ就職課員と学生（全学年対象）に対する個別面談が増えています。

2) 領域別就職ガイダンスの充実

当ガイダンスでは、本学OB・OGを講師に招き、学生の職種選択・進路決定に役立つ講演を実施し、アップToDateに良質ですぐに役立つ情報を学生に提供しています。領域別就職ガイダンスは、製薬企業、CRO（医薬品開発業務受託機関）、公務員、病院、保険調剤薬局・ドラッグストアで実施しました。

3) インターンシップの拡大

4年次生（54期生）には、平成17年8月に大手製薬企業17社にお願いして、学内選考を経た31名でインターンシップを実施しました。MR活動を中心とした就職体験で、参加学生にとって製薬企業を知る貴重な体験となりました。平成18年度3年次生（55期生）には、さらに規模を拡大して、21社40名で8月に実

施しています。職種も製薬企業のMR職だけでなく、医薬品卸の管理薬剤師（大手卸2社4名）も加え、多数の応募学生の中から選考を行い実施しました。

就職活動の時期にも少しづつ変化が見られます。まず、薬業関連企業（MR）を中心として3年次生の3月初旬から本格的に始まっています。MR職は5月頃までに、また、内勤職もおおよそ夏休みまでには終了しています。保険調剤薬局・ドラッグストアなどは、昨年よりも早期化傾向にあり3月中旬にはスタートしていますが、実際は通年採用の形態を取っているケースが多いのが現状です。保険調剤薬局・ドラッグストアにおける薬剤師に対する需要は、医薬分業の進展もありまだまだ大きくなっています。本年度も全国展開している大規模店の関西進出が激しく、本学への求人・採用にもその影響が出ています。この職種については、需要供給の関係でここ2～3年は通年採用が続くと考えていますが、それ以降は薬学部の増加等の影響もあり、予断を許さない状況下にあります。病院研修生の募集は大学院進学とほぼ同じく7月頃から始まり、8月に試験が実施されています。病院薬剤師の募集も7月頃から始まり、その後、年末に向かって採用内定が出てくることとなります。

就職部委員会・就職課では、従来通り一人ひとりの適性や能力に応じてきめ細かな指導ができるように努力しております。関係各位におかれましても、本学学生の就職につきまして、ご指導・ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

なお、平成18年度の大学院博士前期課程2年次生（31期生）の進路・就職内定状況は表2の通りです。

(表1) 平成18年度 4年次生(54期生)進路・就職内定状況

(平成18年10月31日現在)

区分	男	%	女	%	計	%
薬局	17	17.7%	39	19.3%	56	18.8%
病院・診療所	1	1.0%	14	6.9%	15	5.0%
病院研修生	1	1.0%	8	4.0%	9	3.0%
薬業関連企業 (MR)	7	7.3%	16	7.9%	23	7.7%
(内勤)	1	1.0%	11	5.4%	12	4.0%
公務員・教職員	3	3.1%	6	3.0%	9	3.0%
進学 (大学院前期課程 他)	38	39.6%	48	23.8%	86	28.9%
その他						
内定	68	70.8%	142	70.3%	210	70.5%
未定	28	29.2%	60	29.7%	88	29.5%
計	96	100.0%	202	100.0%	298	100.0%

(表2) 平成18年度 大学院博士前期課程(31期生)進路・就職内定状況

(平成18年10月31日現在)

区分	男	%	女	%	計	%
薬局						
病院・診療所	1	3.8%	3	10.3%	4	7.3%
病院研修生			2	6.9%	2	3.6%
薬業関連企業 (MR)	1	3.8%	1	3.4%	2	3.6%
(内勤)	16	61.5%	15	51.7%	31	56.4%
公務員・教職員	1	3.8%			1	1.8%
進学 (大学院後期課程 他)						
その他						
内定	19	73.1%	21	72.4%	40	72.7%
未定	7	26.9%	8	27.6%	15	27.3%
計	26	100.0%	29	100.0%	55	100.0%

大阪薬科大学の公開教育講座は「卒後教育講習会」として1983年に発足以来、本年度で23年目にあたります。これは全国薬科大学の公開教育講座としては最も長い歴史を持つものの一つであり、参加者も極めて多数にのぼっております。1992年からは「薬剤師の生涯教育」に焦点を絞るとともに、全国に先駆けて（財）日本薬剤師研修センターとの共催を決定し、現在に至っております。

さて、昨年度から本公開教育講座は、「くすりの作用と副作用～薬物治療における安全管理のために～」をテーマに、医薬品の適正使用をめぐる様々な問題点を取り上げ、以下のとおりの日程で年3回開催いたしました。具体的には各回の講演テーマを「生活習慣病」に焦点を絞り、「糖尿病」「冠動脈疾患」「高脂血症」について扱い、それらの発症要因から治療薬の作用と副作用までを、基礎と臨床の両面から討論してまいりました。

本年度の開催を終え、延べ参加者数が1,101名（大阪薬科大学卒業生41.8%、他大学卒業生58.2%）となり、参加者の皆様のアンケート結果によりますと概ね好評を得ております。これもひとえに多くの皆様方のご支援の賜であると心より感謝しております。ご協力いただいた方々には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。最後に本講座の開催にあたり、ご共催いただきました（財）日本薬剤師研修センター、（社）日本薬学会近畿支部、並びにご後援いただきました（社）大阪府薬剤師会、大阪薬科大学同窓会に厚く御礼申し上げます。

第42回 大阪薬科大学公開教育講座

5月20日（土）14：00～17：35

- ①『糖尿病と高血圧症の接点～グルコース・ストレスと高血圧～』

大阪薬科大学薬物治療学研究室教授 田中 孝生 先生

- ②『糖尿病の治療薬と副作用～患者の常識・非常識～』

大阪府立総合医療センター栄養部部長／

代謝内分泌内科副部長 細井 雅之 先生

第43回 大阪薬科大学公開教育講座

7月15日（土）14：00～17：35

- ①『冠動脈疾患の治療』

大阪医科大学第三内科講師 河野 龍而 先生

- ②『重大な副作用回避のために～循環器領域における服薬説明の問題点を中心として～』

大阪薬科大学臨床薬剤学教室助教授 井尻 好雄 先生

第44回 大阪薬科大学公開教育講座

11月25日（土）14：00～17：35

- ①『高脂血症治療薬の体内動態と薬物相互作用』

東京大学大学院情報学環・学際情報学府／

東京大学大学院薬学系研究科医薬品情報学講座教授

澤田 康文 先生

- ②『高脂血症・動脈硬化の治療薬と副作用』

大阪府立大学大学院医学研究科代謝内分泌病態内科学講師

庄司 哲雄 先生

開催場所：梅田スカイビルタワーウエスト36階 会議室L・R（各回共通）



第44回 受付風景



第44回 澤田先生



第44回 庄司先生

主に市民の方を対象として実施している恒例の市民講座を、本年度も「健康とくすり」をメインテーマとして、第21回〔5月27日(土)〕・第22回〔10月28日(土)〕の2回にわたって開催いたしました。講演内容については、これまでの参加者の皆様のアンケート結果を参考に決定し、出来るだけ皆様の意向に沿った企画内容となるよう努めてまいりました。同時に、「くすりの相談室」「薬用植物園の見学(学内開催時のみ)」も併せて開催し、「くすりの相談室」では第一線でご活躍中の薬剤師の先生方に、くすりに関するあらゆる相談に応じていただきました。また、第22回は、会場を「本学」から学外の「高槻現代劇場」へ移すこととなり、次年度以降も秋の開催分を学外に設けたいと考えております。

本年度は春・秋の2回開催となりましたが、両日あわせて799名もの参加者があり、成功裏に終わることができました。これもひとえに多くの皆様方のご支援の賜であると心より感謝しております。ご協力いただいた方々には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、本講座の開講にあたり、ご共催いただきました高槻市、(社)日本薬学会近畿支部、(社)大阪府薬剤師会、(社)大阪府病院薬剤師会及び大阪薬科大学同窓会、並びにご後援いただきました大阪府、高槻市教育委員会、高槻市薬剤師会に厚く御礼申し上げます。

第21回大阪薬科大学市民講座

日時：平成18年5月27日(土)13:00～16:10

会場：大阪薬科大学 講堂(講義・実習棟1階)

演題／講師：

「漢方薬の原料となる植物 ～漢方薬との上手なつきあい方を含めて～」

大阪大谷大学薬学部漢方医療薬学講座教授 谿 忠人 先生
「高血圧になるしくみとその治療薬のしくみ」

大阪医科大学薬理学教室教授 宮崎 瑞夫 先生

第22回大阪薬科大学市民講座

日時：平成18年10月28日(土)13:00～16:10

会場：高槻現代劇場 中ホール(文化ホール地下2階)

演題／講師：

「糖尿病について」

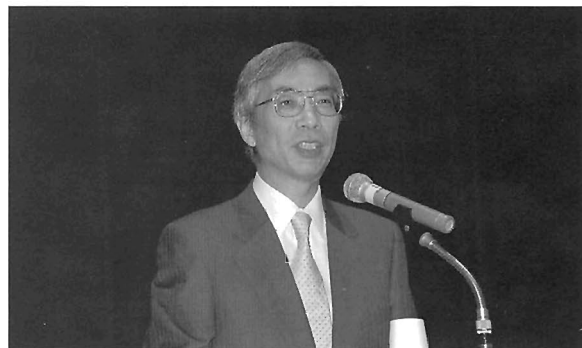
大阪医科大学第一内科教授 花房 俊昭 先生

「喘息治療のGOAL」

高槻赤十字病院呼吸器・アレルギー内科部長 安場 広高 先生



第22回 講演風景



第22回 花房先生



第22回 安場先生

第2回 特待奨学生表彰（学部・大学院）

学生部長 木村 捷二郎

昨年に引き続き、本学の特待奨学生制度に基づき、特待奨学生の第二回表彰式（6月26日（月）：学部2～4年次生及び大学院1年次生の成績優秀者、11月2日（木）：大学院2年次生及び博士後期課程学生の研究成果優秀者）が行われた。本年度も上記制度の選考基準に則り、学部2～4年次生は平成17年度の成績から、大学院1年次生は大学院入試の成績から、それぞれの最優秀者、次席者、三席者が選考された。また、大学院2年次生及び博士後期課程の学生については、10月20日（金）に実施されたプレゼンテーションの内容から大学院委員会において3名の研究成果優秀者が推薦された。この制度は、薬剤師及び薬学研究者等を目指す本学の学生にとって大きな励みになっていること、また、繰り返し特待奨学生になることも可能であるので、次年度も勉学、研究及び課外活動などに頑張してほしい。

平成18年度大阪薬科大学 特待奨学生（第2回） 表彰者一覧 (50音順)

現2年次生

生野 可織
下寺美帆子
速水 美香

現3年次生

井上 真希
前北 章衣
前田 麻里

現4年次生

稲垣絵里子
木村 敬子
田埜 慶子

現大学院修士課程1年次生

大川 聡子
西本 千秋
松岡恵美子

現大学院修士課程2年次生～博士後期課程

坂本 博匡	M2
佐竹 藍子	M2
杉浦 孝宏	M2



特待奨学生表彰式



成績優秀者 特待奨学生



大学院学生による研究成果発表会



研究成果優秀者 特待奨学生

部局だより

総務課

■ 人 事

<大学関係>

採 用 (平成18年9月1日付)

薬 剤 師 宇佐美秀子
(平成18年9月19日付)

薬 剤 師 中島美佐子
(平成18年10月1日付)

講 師 永田 誠

昇 任 (平成18年10月1日付)

教 授 三野 芳紀

教 授 春沢 信哉

退 職 (平成18年12月4日付)

薬 剤 師 角井 義昌
(平成18年12月13日付)

特別研修薬剤師 長谷川 聡司

併 任 (平成18年8月25日付)

大学院博士前期課程指導教員 尹 康子 (助手)

大学院博士前期課程指導教員 箕浦 克彦 (助手)
(平成18年9月21日付)

大学院博士前期課程担当教員 恩田 光子 (講師)
(平成18年12月1日付)

防火管理者 (附属薬局) 真下 博孝 (附属薬局薬局長)

委 嘱 (平成18年9月1日付)

学生相談室相談員 二宮 ひとみ (非常勤)

非常勤講師 (平成18年9月15日付)

<学部>

谷口 智美 (フランス語3)

中村 恵 (ドイツ語3、人間と文化5b)

樋口 久 (英語2)

武内 徹 (免疫学)

榎矢 桂一 (ドイツ語3、人間と文化2)

森山 健三 (東洋医学概論)

Joseph Michael Jacobs (英語4)

Judith Lynn Ritter (英語4)

客員研究員 (平成18年7月1日付)

林 哲也

森 龍彦

相馬 義郎

Tzyh-Chang Hwang
(平成18年9月1日付)

景山 正明

田川 素子

(平成18年10月1日付)

内田 武

(平成18年11月1日付)

河野 龍而

米田 誠治

<法人関係>

評議員退任 (平成18年8月28日付)

森 逸男

■ 学位記授与式

平成18年9月25日(月)午前10時30分より大会議室において、平成18年9月学位記授与式(学部33名:薬学科11名、製薬学科22名)が挙行されました。

■ 慶 弔

<訃報>

大村栄之助 元理事長 (平成18年8月23日逝去)
(在任期間 平成4年2月~平成11年6月)

森 逸男 名誉教授 評議員 (平成18年8月28日逝去)

望月伸三郎 元教授 (平成18年11月16日逝去)

<受章>

森 逸男 名誉教授 評議員 (平成18年8月28日)

<従五位><瑞宝小綬章>

岡田 健治 評議員 (平成18年11月3日)

<旭日双光章>

■ 海外出張

小林 祐次 客員教授 (創薬基盤科学研究室)

<出張期間:平成18年6月7日~6月17日>

第10回生体活性ペプチドに関するナポリワークショップ
に出席・講演 (イタリア)

<出張期間:平成18年9月1日~9月20日>

第29回ヨーロッパペプチドシンポジウム、第12回赤堀
コンファレンスへの出席並びにコラーゲンモデルペプチド、
リボソーム再生因子に関する研究打ち合わせ (ドイツ・
ホーランド)

藤井 忍 講師 (生化学教室)

<出張期間:平成18年7月7日~7月17日>

2006 FASEB Summer Research Conferences
Phospholipases (アメリカ)

■ 海外留学

宇佐美 吉英 講師 (有機分子機能化学研究室)

<留学期間延長>

平成17年10月1日~平成18年9月30日を平成17年
10月1日~平成18年12月31日に変更

ノースカロライナ大学 (アメリカ)

■ 大阪薬科大学ハイテク・リサーチ・センター

開発研究プロジェクト 総括発表

平成18年9月9日(土)午後1時より本学において、大阪
薬科大学ハイテク・リサーチ・センター開発研究プロジ
ェクト総括発表があり、盛況裏に終了しました。

■ 寄 付

・大阪薬科大学同窓会より協賛金

第42回~第44回 公開教育講座の後援

75万円 (1回25万円、3回分)

第21回~第22回 市民講座の共催

40万円 (1回20万円、2回分)

平成19年度大学院薬学研究科
博士前期課程(修士課程)入学試験結果

(推薦入試)

募集人員 16名(臨床薬学コースを含む)
出願期間 平成18年6月19日(月)～6月23日(金)
面接試験 7月3日(月)
合格発表 7月11日(火)
志願者 13名(男子3名, 女子10名)
うち、臨床薬学コース 4名(男子2名, 女子2名)
受験者 13名(男子3名, 女子10名)
うち、臨床薬学コース 4名(男子2名, 女子2名)
合格者 13名(男子3名, 女子10名)
うち、臨床薬学コース 4名(男子2名, 女子2名)

(一般入試1次)

募集人員 24名(臨床薬学コースを含む)
出願期間 平成18年7月18日(火)～7月28日(金)
学力試験 8月18日(金)(外国語科目(英語), 専門科目)
(臨床薬学コース希望者及び他大学出身者のみ面接試験)
合格発表 8月29日(火)
志願者 71名(男子38名, 女子33名)
うち、臨床薬学コース 8名(男子2名, 女子6名)
受験者 67名(男子37名, 女子30名)
うち、臨床薬学コース 7名(男子2名, 女子5名)
合格者 47名(男子25名, 女子22名)
うち、臨床薬学コース 6名(男子2名, 女子4名)

(一般入試2次)

募集人員 若干名(臨床薬学コースを含む)
出願期間 平成18年10月2日(月)～10月6日(金)
学力試験 10月13日(金)(外国語科目(英語), 専門科目)
(臨床薬学コース希望者及び他大学出身者のみ面接試験)
合格発表 10月20日(金)
志願者 22名(男子11名, 女子11名)
うち、臨床薬学コース 3名(男子0名, 女子3名)
受験者 22名(男子11名, 女子11名)
うち、臨床薬学コース 3名(男子0名, 女子3名)
合格者 17名(男子8名, 女子9名)
うち、臨床薬学コース 2名(男子0名, 女子2名)

学位授与

[博士]

論博第44号 博士(薬学) 箕浦 克彦
Tauタンパク質に存在する微小管結合ドメインのフィラメント形成能と構造に関する研究
(平成18年7月19日付)

論博第45号 博士(薬学) 尹 康子
生理活性ペプチドの、C-末端アミド化が及ぼす構造化学的影響の解明
(平成18年7月19日付)

論博第46号 博士(薬学) 松本 慶太
酵素-阻害剤複合体のX線結晶構造解析に基づく薬物設計 一創薬研究への利用を目指して一
(平成18年11月27日付)

[学士]

学士(薬学)薬学科 11名 製薬学科 22名
男子 13名 女子 20名 合計 33名
(平成18年9月30日付)

平成18年度 後期行事予定
(学部)

平成18年

8.29(火) 前期再試験受験者発表(1～3年次生)
9.1(金) 前期再試験(4年次生・1～4年次全科目)
9.9(土) 9月9日(土)を含む
9.13(水)
9.4(月) 前期再試験(1～3年次生)
9.9(土) 9月9日(土)を含む
9.13(水)
* * * * *
9.15(金) 後期授業開始(1～3年次生)
9.15(金) 就職ガイダンス[学内企業セミナー(研究職・開発職等を中心として)]
9.19(火) 月曜講義の振替開講日(1～3年次生)
9.20(水)
9.20(水) 第2回薬学総合演習総合試験(4年次生)
9.21(木)
9.21(木) 特別再試験 受験者発表(4年次生)
9.25(月) 就職ガイダンス(3年次生)
9.27(水) 後期選択科目(1～3年次生)履修届提出締切(教務課)午後3時
10.13(金) 平成19年度(第2次)大学院修士課程一般入学試験
10.16(月)
10.16(月) 特別再試験(4年次生)この期間の月曜日
12.11(月)
10.20(金) 平成19年度(第2次)大学院修士課程一般入学試験合格者発表
10.21(土)・10.23(月)
10.21(土)・10.23(月) 第3回薬学総合演習総合試験(4年次生)

10.26(木)第41回大薬祭準備(1~3年次生午後臨時休講)

10.27(金)
 { 第41回大薬祭(臨時休講)

10.29(日)

10.30(月)第41回大薬祭後片付け(1~3年次生臨時休講)

11.11(土)平成19年度公募制推薦入学試験(S方式)・
 帰国生徒特別選抜入学試験(K方式)

11.18(土)平成19年度指定校制推薦入学試験(R方式)

11.22(水)平成19年度公募制推薦入学試験(S方式)・
 指定校制推薦入学試験(R方式)・帰国生徒特別選抜入学試験(K方式)合格者発表

11.30(木)就職ガイダンス(3年次生)[学内企業セミナー(薬業関連企業)]

12.11(月)
 { 第4回薬学総合演習総合試験(4年次生)

12.12(火)

12.13(水)実験動物慰霊祭

12.16(土)平成18年度長期病院実務実習報告会(4年次生長期病院実務実習コース)

12.20(水)就職ガイダンス(3年次生)[学内企業セミナー(薬局・ドラッグストア)]

12.22(金)後期授業年内終了(1~3年次生)

平成19年

1.9(火)後期授業再開(1~3年次生)

1.9(火)月曜講義の振替開講日(1~3年次生)

1.9(火)後期授業終了(1~3年次生)

1.10(水)
 { 後期授業予備日

1.12(金)

1.15(月)
 { 後期定期試験(1~3年次生)

1.26(金)

1.19(金)平成19年度大学入試センター試験実施準備(午後)

1.20(土)平成19年度大学入試センター試験〔センター試験利用入学試験(C方式)〕

1.21(日)

1.26(金)
 { 薬学総合演習正規試験1(4年次生)

1.27(土)

1.29(月)後期定期試験(1~3年次生)欠席届提出締切(教務課)午後1時

2.1(木)平成19年度一般入学試験I(F方式)[本学・駿台予備学校大阪南校・広島国際会議場・高松商工会議所会館]

2.6(火)後期再試験 受験者発表(1~3年次生)

2.7(水)平成19年度一般入学試験I(F方式)合格者発表

2.9(金)平成19年度一般入学試験II(G方式)(本学・駿台予備学校大阪南校)

2.13(火)
 { 薬学総合演習正規試験2(4年次生)

2.14(水)

2.13(火)
 { 後期再試験(1~3年次生)
 { 2月17日(土)を含む

2.23(金)

2.16(金)平成19年度センター試験利用入学試験(C方式)・一般入学試験II(G方式)合格者発表

2.20(火)
 { 薬剤師国家試験全国統一模擬試験(4年次生)

2.21(水)

2.22(木)卒業生発表(教務課)

2.23(金)特別再試験 受験者発表(3年次生)

3.5(月)
 { 特別再試験(3年次生)

3.8(木)

3.10(土)
 { 第92回薬剤師国家試験(厚生労働省)

3.11(日)

3.15(木)進級者発表・未修得科目発表(教務課)

3.17(土)第54期学部学位記授与式及び第31期大学院学位記授与式

3.28(水)
 { 日本薬学会第127年会(富山)

3.30(金)

平成18年度 後期行事予定 〈大学院〉

平成18年

9.25(月)後期特論開始

10.2(月)後期特論選択科目履修届提出締切 午後3時(教務課)

10.2(月)平成19年度(第2次)修士課程一般入学試験
 { 試験出願受付

10.6(金)

10.13(金)平成19年度(第2次)修士課程一般入学試験

10.20(金)平成19年度(第2次)修士課程一般入学試験合格者発表

10.20(金)大学院特待奨学生選考(申請者発表会)

12.18(月)後期特論終了

平成19年

1.19(金)
 { 平成19年度博士後期課程入学試験出願受付

1.26(金)

2.6(火)平成19年度博士後期課程入学試験

2.14(水)修士学位論文提出期限 午後1時(教務課)

2.16(金)平成19年度博士後期課程入学試験合格者発表

2.23(金)
 { 修士学位論文発表会

2.24(土)

3.6(火)平成18年度修士課程修了者発表

3.17(土)第31期大学院学位記授与式

○自動車・単車通学の禁止について

本学では、通学途上の事故防止、騒音や路上駐車による近隣居住者への迷惑防止、構内での交通安全を確保し学園内環境を保全するため、自動車・単車（原付を含む）の入構を原則として禁止しています。

学生自身の安全のためばかりでなく、居住者への迷惑防止のためにも、学内交通ルールを守り、バス等公共交通機関を利用して通学してください。

○公共交通機関でのマナーについて

バスの車内で妊婦やお年寄りに席を譲る、大声で話さない、携帯電話を使用しない、などは基本的なマナーです。他の乗客に迷惑をかけないように注意してください。

○自転車利用の皆さんへ

大学の正門から自転車で下校する学生は、スピードの出し過ぎに注意してください。自転車でスピードを出して坂道を下ると、歩行者に大きな恐怖感を与えます(特に下校時の小学生、お年寄り)。十分に減速してください。

また、夜間の無灯火での走行は、周囲の状況も判断しづらくなり事故の原因にもなります。薄暗くなったら必ずライトを点灯してください。

自転車による事故報告もあります。加害者、被害者にならないためにも十分に注意してください。

○バス停留所について

「大和北」停留所での乗降は、道路を横断するため大変危険です。必ず、「大阪薬大前」停留所を利用してください。

○カルト団体の勧誘活動に注意してください

最近、カルト団体「摂理」による大学生に対する勧誘活動が、マスコミ等で報道されています。学生のみならず、このようなカルト団体の勧誘には十分注意してください。

これらの団体は、最初は活動内容を明かさずに、スポーツや文化系の「音楽、ゴスペル合唱、モデル」などのサークル活動であるように偽って勧誘し、信頼関係を築いてから団体の教義を教え込んでゆき、知らず知らずの内にマインドコントロールを行います。

カルト団体に入会してしまいますと、人格を破壊されるばかりでなく、精神的・肉体的・経済的にも大きな負担となり、皆さんの大切な学生生活のみならず、一生が台無しになってしまいます。

本学では、今のところ被害の報告はありませんが、これらの団体は、学生を対象に巧妙な手口で声をかけてきますので、学内・学外を問わず何かを勧誘されることがあれば「カルト団体の勧誘」かも知れないことを念頭に置いて、少しでも怪しいと感じたらきっぱりと断ってください。

なお、学内で不審な団体の勧誘活動を見かけたり、実際に勧誘されたときは、学生課に連絡してください。詳しくは「日本脱カルト協会」のホームページ (<http://www.cnet-sc.ne.jp/jdcc/>) などを参考にしてください。

奨 学 生 状 況

平成18年10月1日現在

1. 日本学生支援機構

区 分	1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	合 計
第 一 種	41(18)	44(20)	31(8)	56(17)	17(1)	189(64)
月 額	自 宅 54,000円	自 宅 53,000円	自 宅 53,000円	自 宅 51,000円	88,000~	
	自 宅外 64,000円	自 宅外 63,000円	自 宅外 63,000円	自 宅外 61,000円	122,000円	
第 二 種	73(18)	90(20)	70(8)	55(17)	13(1)	301(64)
月 額 (薬学課程増額月額)	3万・5万・8万・10万円 から選択 (10万円を選択した場合は2万の増額可)				5万・8万・ 10万・13万 円から選択	
合 計	114(18)	134(20)	101(8)	111(17)	30(1)	490(64)

() 内の数字は第一種と第二種の併用者で内数

2. その他の育英・奨学会

区 分	月額(円)	1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	合 計	給付・貸与
(財) 岡 山 県 育 英 会	51,000	0	0	0	1	-	1	貸 与
(財) 山 口 県 ひとづくり財団	52,000	0	0	0	1	-	1	貸 与
(財) 小 野 奨 学 会	学 部 30,000 大 学 院 60,000	2	1	1	1	3	8	給 付
(財) 河 内 奨 学 財 団	40,000	0	0	1	0	-	1	給 付
(財) 佐 藤 奨 学 会	19,500	0	0	0	1	-	1	給 付
大阪薬科大学一般奨学金	学 部 50,000 大 学 院 60,000	8	3	1	0	2	14	一部給付
大阪薬科大学育友会奨学金	40,000	3	1	0	0	2	6	貸 与
合 計		13	5	3	4	7	32	

「関西薬連大会・全国薬連大会」結果（平成18年度）

◆ 関西薬連大会

部 名		団 体	個 人
剣 道 部	男子	4位	
	女子	Aチーム 2位	4位：竹田①
	新人戦	4位	
硬 式 庭 球 部	男子	3位	
	女子	5位	シングルス／4位：杉内①
硬 式 野 球 部		2位	
サ ッ カ ー 部		2位	
柔 道 部	男子	1位	(有段の部)2位：橋本③ (無段の部)3位：堺井①
	女子	-----	1位：時吉③
ソフトテニス部	男子	4位	
	女子	4位	
卓 球 部	男子	予選敗退	
	女子	-----	
バスケットボール部	男子	1位	
	女子	9位	
バドミントン部	男子	4位	
	女子	1位	シングルス／1位：河前③ 2位：岩崎③ ダブルス／1位：河前③・岩崎③
バレーボール部	男子	3位	
	女子	3位	
陸 上 競 技 部	総合	4位、男子4位、女子3位	
	男子	フィールド	走り高跳び／2位：片桐③ やり投げ／3位：山内③ 三段跳び／2位：片桐③ 砲丸投げ／3位：片桐③
	女子	トラック フィールド	100m×4リレー／3位：井上③・宇埜③・初瀬③・山中③ 円盤投げ／1位：中川③ 走り高跳び／1位：初瀬③ 走り幅跳び／3位：宇埜③

◆ 全国薬連大会

部 名		団 体	個 人
剣 道 部	男子	予選敗退	
	女子	Aチーム 3位	優勝：竹田① 3位：福島③
ソフトテニス部	男子	3位	
	女子	予選敗退	
卓 球 部	男子	予選敗退	
	女子	-----	
バスケットボール部	男子	ベスト10	
	女子	ベスト10	

注) ①内は学年

卒業後3年の就業動向アンケート調査結果報告

本学ではますます多様化・高度化する薬業界の動向やニーズを的確に知り、学生の就職指導に反映させるため、平成12年度（48期生）より卒業後3年を経過した本学OB・OGの方々のご協力を得て、卒後3年間の就職状況に

関するアンケート調査を実施しています。そこで本年も、49期生・50期生にもお願いして同じ調査を実施させていただきました。その結果、次のような調査結果を得ることができましたのでご報告いたします。

学部卒業生の卒後3年経過後の就業動向調査の集計結果について

【平成13年度卒業生（49期生）】

■アンケート対象：283名（9月卒業等を含む）

■アンケート回答者数：68名（24.0%）

□卒業後、転職したか？

1. 転職した者 14名（20.6%）
2. 転職していない者 54名（79.4%）

□卒業後から現在の就職状況の変遷（転職者のみ）

〔転職者：14名〕

卒業時の職種	人数	勤務年数（平均）
調剤薬局	8	1年5ヶ月
ドラッグストア	2	1年6ヶ月
病院	1	8ヶ月
企業（MR）	2	1年2ヶ月
企業（内勤）	1	1年
計	14	1年4ヶ月

□転職理由（複数回答あり）

理由	件数	理由	件数	理由	件数
勤務地	3	人事制度	—	リストラ	—
人間関係	4	評価制度	1	家庭の事情	2
待遇	7	倒産	—	その他	8

※「その他」＝経営方針、仕事内容、ヘッドハント、結婚

□転職を考えているか？その理由（複数回答あり）

〔転職者：14名〕

1. 考えている 5名（35.7%）
2. 考えていない 8名（57.1%）
3. その他（無記入） 1名（7.1%）

理由	件数	理由	件数	理由	件数
勤務地	3	人事制度	—	リストラ	—
人間関係	1	評価制度	—	家庭の事情	1
待遇	—	倒産	—	その他	1

〔転職していない者：54名〕

1. 考えている 25名（46.3%）
2. 考えていない 28名（51.9%）
3. その他（無記入） 1名（1.9%）

理由	件数	理由	件数	理由	件数
勤務地	4	人事制度	5	リストラ	—
人間関係	3	評価制度	2	家庭の事情	5
待遇	9	倒産	2	その他	9

※「その他」＝調剤技術の必要性、仕事量、キャリアアップ
実家（調剤薬局）へ戻る、転居、結婚

【平成14年度卒業生（50期生）】

■アンケート対象：276名（9月卒業等を含む）

■アンケート回答者数：82名（29.7%）

1. 転職した者 21名（25.6%）
2. 転職していない者 61名（74.4%）

〔転職者：21名〕

卒業時の職種	人数	勤務年数（平均）
調剤薬局	5	1年3ヶ月
ドラッグストア	2	6ヶ月
病院	11	1年4ヶ月
企業（MR）	1	2年
企業（内勤）	2	1年1ヶ月
計	21	1年3ヶ月

理由	件数	理由	件数	理由	件数
勤務地	2	人事制度	4	リストラ	—
人間関係	6	評価制度	1	家庭の事情	2
待遇	7	倒産	—	その他	6

※「その他」＝職種への疑問、仕事内容、政治色が強い、休日（当直等）、キャリアアップ

〔転職者：21名〕

1. 考えている 8名（38.1%）
2. 考えていない 13名（61.9%）

理由	件数	理由	件数	理由	件数
勤務地	1	人事制度	2	リストラ	—
人間関係	—	評価制度	1	家庭の事情	1
待遇	5	倒産	—	その他	2

※「その他」＝給与

〔転職していない者：61名〕

1. 考えている 24名（39.3%）
2. 考えていない 36名（59.0%）
3. その他（無記入） 1名（1.6%）

理由	件数	理由	件数	理由	件数
勤務地	6	人事制度	6	リストラ	—
人間関係	4	評価制度	4	家庭の事情	5
待遇	9	倒産	—	その他	8

※「その他」＝企業の開発規模、仕事内容、キャリアアップ
サービス残業が多い、結婚

本調査によって、本学卒業生も卒後3年間で30%近く(49期生:20.6%・50期生:25.6%)が転職していることが判明しました。これは全国大学新卒者の3年後の動向に類似しています。アンケート回答者49期生68名(24.0%)、50期生82名(29.7%)中、転職した49期生14名、50期生21名を分析してみると、卒業後から最初の転職までの期間は、それぞれ平均1年4ヶ月(49期生):1年3ヶ月(50期生)でした。1年以内に転職した人は3名(21.4%):9名(42.9%)です。最初の転職までの期間を職種別に見てみると、調剤薬局:1年5ヶ月:1年3ヶ月、ドラッグストア:1年6ヶ月:6ヶ月、病院:8ヶ月:1年4ヶ月です。3年以内で2回以上転職したものは、4名(28.6%):5名(23.8%)でしたが、1回転職経験のある14名中の5名(35.7%):21名中の8名(38.1%)が

さらに転職を考えていると回答しています。また、3年間転職をしていないものの中でも、54名中の25名(46.3%):61名中の24名(39.3%)が今後転職を考えていることが分かりました。転職理由としては、待遇、人間関係、人事制度、勤務地が多くなっています。今回の調査結果から、就職ガイダンス、セミナー内容の充実、きめ細かな職種別情報提供の必要性が示唆され、今後さらに、個人面談を充実させて学生一人ひとりに合った就職・進路支援を強化していきたいと考えています。

最後になりましたが、本調査にご協力いただきました平成13年度卒業生(49期生)および平成14年度卒業生(50期生)の皆様、および本学同窓会事務局の方々にかから御礼申し上げます。

入試・広報課

オープンキャンパスを実施しました

近年、夏の恒例行事となりましたオープンキャンパスは、本年度も3日間(7月29日(土)、30日(日)、8月19日(土))開催し、受験生を中心に延べ約780名の方に参加していただきました。

当日は、まず栗原学長より挨拶の後、本学紹介のビデオ上映、続いて、掛見入試副委員長から「平成19年度入試概要」、田中就職部長から「進路(就職・大学院進学)状況」などについて説明がありました。全体説明の後は、自由に参加できる「模擬実験」「各研究室による特別実験」のほか、本学在学生による「学内見学ツアー」や、本学教員による「個別相談」のコーナー等、単なる入試説明だけに留まらず、『大阪薬科大学』とはどのよ

うな大学か?を感じてもらえるように工夫をこらしました。

アンケートによると、回答者の8割以上の方が「大変満足」「満足」と、その成果は概ね成功だったようです。中でも、在学生による学内見学ツアーは、「案内してくださる方がとても親切で、この大学に入学したくなりました」「色々な話を聞けてとても満足している」と好評でした。また今年度、新たな試みとして実施の無料送迎バス(JR摂津富田駅・大学間)も、利用者には大変好評でした。

今後も、これら参加者のご意見等を踏まえ、多くの人に大学をアピールできるよう、より一層充実させていきたいと思えます。



進学説明



模擬実験

図書館

○新図書館システムの導入

図書館では、図書館システム(図書の貸出・返却・登録等用コンピュータ)、および学内LANに繋がっているOPAC(図書検索等用パソコン)9台が古くなった

ため、8月に、新機種(CARIN)に変更しました。

これに伴い、カウンターの端末機器は操作が容易になり、業務が迅速化され、利用者へのサービスも向上することが期待されます。



図書館システムの端末機



OPAC(図書検索用パソコン)

薬用植物の紹介

イチョウ *Ginkgo biloba* L.

中国原産の落葉高木で、日本全土に広く植栽されている。かつては高見ノ里学舎の象徴として、中庭や玄関辺りにあり、本館の屋根よりも高くそびえ、秋には多くの実（銀杏）を稔らせて、通る車に踏みつけられて臭かった事を思い出す。現在は講義棟入り口の左側にある100周年記念碑の中に、その名残をとどめている。イチョウは1属1種の珍しい単独種で、2億5千万年以上にもわたる気候の変化にも耐えて今日まで生き延び、生きた化石とも言われている。天然記念物にも指定される樹齢の長い巨木もあり、また御堂筋の街路樹としても大阪市民に親しまれている。樹高は30~40mで、幹は直立し、樹皮は灰色である。葉身は扇形で、中央が切れ込んでいる。イチョウの名はこの葉の形がカモの足に似ていることから、中国で鴨脚



イチョウの雌花と雄花

武田薬品工業株式会社

「武田薬報・別冊 有用植物シリーズ」より

（ヤアチャオ）樹という、それがなまったものだと言われている。雌雄異種で、高等植物で初めて精子を持つことが発見された植物で、平瀬作五郎、等によりシダ植物と裸子植物の関連が明らかにされた。花期は5~6月で、新葉と共に雄花は淡黄色、雌花は緑色である。雌花の花粉は胚珠のなかの花粉室で生育し、9月初旬に精子を出して受精して成熟する。黄色く熟した実（果実ではない）の外種皮は多肉で特有の臭気を放つ。内種皮は白くて硬く、これがギンナン（銀杏）である。種子は食用とし、茶碗蒸しにしたり、焼いてつまみにしたりするが、独特の味わいがある。外種皮には有毒フェノール性化合物のギンコール酸、ピロボール、微量の青酸配糖体などが含まれる。種子の成分として少量の青酸配糖体、ジベレリン、サイトカイン様物質を含む。また、新鮮な雄花のラフィノースの量は4%にも達する。種子は鎮咳、去痰の目的で薬用とするが、多食または生食す



イチョウ実

ると中毒を起し、死亡することもあるので、注意が必要である。また、外種皮の外層の粘液は皮膚につくとアレルギー性

皮膚炎（かぶれ）を起こすことがある。一方、葉の抽出物は1975年にドイツの製薬会社シュワーベ社で血管拡張剤として開発され、「Tebonin Forte」、「Roekan」の名称で発売されており、また、フランスでも同様の目的で液剤が発売されている。血管拡張作用の主薬はフラボノイドのケルセチン、ケンフェロール、イソラムネチンであるが、これらにはパピペリン様の持続性鎮痙作用もあるという。また、ヒトに対する数多くの臨床試験が報告され、脳循環不全に伴う機能障害（アルツハイマー症、脳梗塞後遺症）、末梢循環改善、冷え性に対する効果などが確認されており、現在ヨーロッパでは売り上げトップを争う医薬品になっている。しかし強い血小板凝集抑制作用が確認されているので、抗凝固薬との併用や出血傾向のある者の服用には十分注意が必要である。イチョウの葉は緑色を失う直前に収穫、乾燥、抽出されるが、その成分としては上記のフラボノイドのほか、特有のジテルペンラクトンのギンゴライド類やフラボノイド2量体のアメントフラボン、ピロペチンなどが含まれている。なかでもジテルペンラクトン類の含有量は日本産のイチョウに最も多く、約6%以上という。また、実と同様にギンコール酸を0.1~1%含んでいるので、人によってはかぶれなどの副作用が出る可能性がある。日本ではイチョウの葉はサプリメントとして流通しているが、ギンコール酸は除いてある。しかし、粗悪な製品では残っていることがあるので、十分に注意が必要と思われる。

(薬用植物園長 馬場 きみ江)

発行
大阪薬科大学広報委員会

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4-20-1
TEL (072) 690-1019(入試・広報課)
FAX (072) 690-1018(//)
URL <http://www.oups.ac.jp/>